



KAKEGAWA
CHAENNALE

かけがわ茶エンナーレ 【アートアカデミー】

榛村純一さん・椿 昇さん トークセッション 参加者募集



「報徳とアートとまちづくりを語る」	
日 時	10月28日(土) 13:30～
会 場	大日本報徳社 大講堂
定 員	150人(申込順)、参加無料
内 容	大日本報徳社社長の榛村純一氏と、参加アーティストの椿昇氏が、山口裕美総合プロデューサーの進行のもと、掛川に深く根付く「報徳思想」を、まちづくりやアートの視点から語ります。茶エンナーレの楽しみ方なども紹介します。
申込方法	10月20日(金)までに電話またはEメールで以下項目をお伝えください。 ①参加者氏名 ②住所 ③電話番号 ④申込のきっかけ【広報かけがわ、ホームページ、チラシ、紹介、その他】 【申込先】かけがわ茶エンナーレ実行委員会事務局(掛川市文化振興課) 〒436-8650 静岡県掛川市長谷一丁目1番地の1 TEL: 0537-21-1126 E-mail: chaennale@city.kakegawa.shizuoka.jp



榛村 純一(しんむら じゅんいち) かけがわ茶エンナーレ顧問、大日本報徳社社長

昭和9年掛川市上垂木生まれ。桜木小・中学校、掛川西校、早稲田大学卒業。昭和52年から平成17年まで7期にわたり掛川市長として掛川市のまちづくりに取り組む。静岡県森林組合連合会会長、全国地域づくり推進協議会会長、全国生涯学習市町村協議会会長、静岡県茶業会議所会頭、日本茶業中央会会長などを歴任。早稲田大学・静岡大学ほか多大学の客員教授を勤めるとともに、平成13年から大日本報徳社社長に就任。平成10年藍綬褒章受賞(林業振興功労)、平成17年掛川市名誉市民。著書に『報徳ライフのすすめ』(清文社)、『まちづくりの極意』(ぎょうせい)など多数。

椿 昇(つばき のぼる) インスタレーション 展示会場: 掛川市役所庁舎内

京都市立芸術大学美術専攻科修了。1989年 アゲインストネーチャーに「Fresh gasoline」を出品、展覧会のタイトルを生み、その後の日本のコンテンポラリーアートの方向性に多大な影響をもたらした。1993年 ベネチア・ビエンナーレに出品。2001年 横浜トリエンナーレで、巨大なバットのバルーン《インセクト・ワールド-飛蝗(バット)》を発表。2003年 水戸芸術館にて個展。2009年 京都国立近代美術館にて個展。2012年 霧島アートの森(鹿児島)にて個展。一貫してユーモアあふれる巨大な玩具を主にバルーンを用い、現代社会の抱える危機的な状況への警告を内包させている。また、地域再生のアートプロジェクトのディレクターも努め、瀬戸内国際芸術祭では、2013年「器+坂手プロジェクト」、2016年「小豆島未来プロジェクト」のディレクターとして大きな経済的成功をもたらした。長年にわたってアート教育にも携わり、京都造形芸術大学美術工芸学科の卒業展をアートフェア化、内需マーケット育成のためにアルトテックを創設。アートを持続可能社会実現のイノベーションツールと位置づけている。

山口 裕美(やまぐち ゆみ) かけがわ茶エンナーレ総合プロデューサー

アートプロデューサー。孤軍奮闘する日本の現代アートにおいて常にアーティストサイドに立つ活動から「現代アートのチアリーダー」の異名を持つ。eAT金沢99総合プロデューサー、ARS ELECTRONICA2004 ネットビジョン審査員、NPO法人芸術振興市民の会理事長、玉川大学観光学部・女子美術大学芸術学部非常勤講師。著書に『芸術のグランドデザイン』(弘文堂)、『観光アート』(光文社新書)など多数。

